

CONTENTS

藍桐祭 今年のテーマは「英知」～Discover Japan～ 1
第69回 藍桐祭 2
生徒会(藍桐祭の「あんな話」や「こんな話」) 4
委員会活動紹介(ボランティア委員会) 5
noblesse obligeの旅 5
Event Topics
●自己発見と共生の旅 6
●夏季進学合宿 6
●サバイバルキャンプ 6
●オーストラリア最先端科学研修 7
●イングリッシュサマーコース 7
スケジュール/募集要項/編集後記 8

Toshidai Todoroki News letter

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

TOKYO CITY UNIVERSITY TODOROKI JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL



藍桐祭

今年のテーマは「英知」～Discover Japan～

本校では文化祭を、アントレプレナー教育の場として考えています。高校生には模擬店(食品販売)が認められていますが、そのためには6月の企画審査会を通過する必要があります。各クラスともにコスト削減策、販売促進プランなど、オリジナリティあるプレゼンをおこないました。同時に、テーマとの関連性において、あらためて日本の文化・伝統を見つめ直す契機となりました。

また、本校では文化祭を、生徒が人間的に大きく成長する絶好の機会であるとも考えています。従って、教員側は「生徒が主役」を基本コンセプトとし、安全管理面は主導しますが、その他の多くの場面においては生徒の自主性を尊重します。特に、今年度は初めて有志生徒による藍桐祭執行部が立ち上がり、装飾係・イベント

係・広報係などにも有志によって編成されました。生徒たちは毎日遅くまで残って「お客様」をお迎えするための準備を進めました。

今年の来場者数は5000名を越え、大変に賑わいのある文化祭になりました。ご来場の皆様方、ご協力いただいた後援会・卒業生の皆様方、本当にありがとうございました。

生徒主体の文化祭において、特に執行部や各係りの生徒たちは、或る種の使命感に燃えながら、本当に生き生きと頑張っていました。当然、苦勞や困難にも直面したはずですが、それを乗り越えた生徒たちは達成感・充実感を得て、とても誇らしげな表情をしていました。

(主幹教諭 宮内伸人)

中学校・高等学校募集要項(抜粋)

*必ず募集要項でご確認ください。

【中学一般入学試験募集要項(S特選コース・特選・特進コース)】

試験日	S特選コース	2/1(月)午後・2/2(火)午後
	特選・特進コース	2/1(月)午前・2/2(火)午前・2/3(水)午後・2/4(木)午前
募集定員	S特選コース	40名
	特選・特進コース	140名
試験科目配点	S特選コース	国語・算数(各50分、各100点)・理科・社会(合計60分、各50点)
	特選コース	国語・算数(各50分、各100点)・理科・社会(合計60分、各50点)
	特進コース	※第2回 2/2(火)午前のみ理科・社会(合計60分、各50点)または英語(60分、100点)の選択
面接	S特選・特選・特進コース	なし
集合時間	S特選コース	14:30
	特選・特進コース	8:30/14:30
合格発表	S特選コース	本校ホームページ 2/1(月)・2/2(火)22:00～翌日12:00 本校にて掲示 入試翌日9:00～13:00 ※スライド合格制度、特別奨学生制度あり
	特選コース	本校ホームページ 2/1(月)・2/2(火)・2/3(水)22:00～翌日12:00、2/4(木)20:00～翌日12:00 本校にて掲示 入試翌日9:00～13:00 ※第4回 2/4(木)のみ、S特選コースへのスライド合格あり
	特進コース	本校ホームページ 2/1(月)・2/2(火)・2/3(水)22:00～翌日12:00、2/4(木)20:00～翌日12:00 本校にて掲示 入試翌日9:00～13:00 ※第4回 2/4(木)のみ、S特選コースへのスライド合格あり

【中学帰国生入学試験募集要項】

試験日	第1回	平成27年12月12日(土)午前
	第2回	平成28年 2月 2日(火)午前
募集定員	第1回・第2回	20名(第1回、第2回帰国生入試合計)
出願資格	第1回・第2回	平成28年3月小学校卒業見込みまたは同等の学力を有する児童で、以下のいずれかに該当する者 ・現在国内に在住し、海外在住1年以上で帰国後3年以内の者 ・現在海外に在住し、平成28年4月1日までの在留期間が1年以上の者
試験科目配点	第1回・第2回	国語・算数(各50分、各100点)・作文(60分日本語800字5段階評価)・面接(本人及び保護者20分程度)または、英語・算数(各50分、各100点)・作文(60分日本語800字5段階評価)・面接(本人及び保護者20分程度) ※第2回 2/2(火)は面接なし
集合時間	第1回・第2回	8:30
合格発表	第1回	本校にて掲示 平成27年12月14日(月)9:00～12:00 ※コースごとに発表いたします
	第2回	本校ホームページ 平成28年 2月 2日(火)22:00～翌日12:00 本校にて掲示 入試翌日9:00～13:00 ※コースごとに発表いたします

【高校一般入試募集要項(特別選抜コース)】

試験日	2/13(土)
募集定員	40名
出願資格	平成28年3月中学校卒業見込みの者 ※併願優遇希望者は下記基準を満たした上で入試相談が必要です。 (併願優遇に関する基準) ①学校長の推薦する者 ②遅刻・欠席は3年間で各30日以内とする ③評定は中学3年2学期または前期(後期中間でも可)の成績を基準とする ④評定は9科に1、5科に2かかないこと ⑤併願は公立・私立ともに併願可とする ⑥内申基準は3科合計14以上かつ5科合計23以上とする (英検準2級を取得している者には加点1.2級以上を取得している者には加点2とします)
試験科目	英語・数学・国語(各50分、各100点)
面接	あり(本人のみの個人面接)
集合時間	8:30
合格発表	本校ホームページ 2/13(土)20:00～翌日12:00 ※本校にて掲示 2/14(日)11:00～12:00 合格結果通知書を交付します

※中学・高校ともに成績上位者のうちA特・B特合わせて10名～15名が特別奨学生となります。(ただし中学はS特選コース受験生に限る)

今後のスケジュール

- 11月6日(金)
●模試(高1・高2・女子部)
- 11月7日(土)
●模試(高2)
- 11月9日(月)～13日(金)
●修学旅行～平和と命の旅～(中3)
- 11月12日(木)
●校外学習(女子部)
- 11月16日(月)～18日(水)
●語学研修～British Hills～(中2)
- 11月18日(水)～20日(金)
●語学研修～British Hills～(高1)
- 11月21日(土)
●中学生徒総会
- 11月25日(水)
●英語スピーチコンテスト(中1～高2)
- 12月8日(火)～11日(金)
●期末考査
- 12月19日(土)
●終業式
- 12月21日(月)～26日(土)
●冬季登校講座
- 1月4日(月)～6日(水)
●スキー教室(中2・中3希望者)
- 1月8日(金)
●始業式
- 1月27日(水)
●合唱コンクール(中1～高2)
- 2月19日(金)
●ロードバイク(共学部)
- 3月4日(金)～8日(火)
●期末考査
- 3月17日(木)
●高校卒業式
- 3月18日(金)
●女子部グランドフィナーレ
- 3月19日(土)
●終業式
●中学修了式
- 3月22日(火)～26日(土)
●春季登校講座
- 3月22日(火)～28日(月)
●高2受験対策講座



都市大等々力ニュースレター
Toshidai Todoroki News letter
vol.11 2015 Oct.

編集発行：東京都市大学等々力中学校・高等学校
発行日：平成27年10月30日

〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-10-1
TEL.03-5962-0104 FAX.03-3701-2197

<http://www.tcu-todoroki.ed.jp>

高校在学中、文化祭実行委員会の責任者でした。生徒による文化祭の運営を見守りながら、自分の頃はとうとうたつたろうと思いつつも、少しづつと懐かしさを感じてしまいます。理由は「言われてやっていただけだから。今回、生徒たちは本当に積極的に活動しました。生徒たちが自分たちで運営した藍桐祭は、きつとも何年たっても彼らの心に残ることでしょう。」

(平山 瑛)

早いもので今年度も半年が経ちました。新たな学年でも多くのことを学び、日々成長している生徒たちが主体となって企画運営した藍桐祭を開催しました。困難に直面しながらもやり遂げたときの彼らの充実感が印象的でした。今回の経験を生かして、今後も様々なことに積極的に取り組んで成長してほしいと思います。

(上原 智)

編集後記



今回の藍桐祭は非常に楽しいものでした。今年から「執行部」を立ち上げ、学校全体の運営を行いました。生徒の手で主体的に運営を行うことは、責任を伴うものであり、苦勞や失敗も少なくはありません。しかし、その分成功した時の喜びはこの上ないものでした。私たちが立ち上げた「藍桐祭執行部」は未熟なものではありますが、後輩たちに引き継いでもらい、また新たな藍桐祭を作り上げていくのが楽しみです。
(藍桐祭執行部委員長 高校2年)



藍桐祭についての感想を考えた際、この原稿に収まりきれない位、書きたいことがたくさんありました。準備期間はとても大変で夜遅くまで残って眠くなることもありましたが、モニュメント系のリーダーとしての責任や最後の藍桐祭への思いもあり、必死で取り組みました。その分、藍桐祭が終わった時の達成感は大きく、自分にとって今年の藍桐祭は特別なものだったんだと実感しました。最高の思い出になりました。
(モニュメント係責任者 高校2年)



私たち食品係は模擬店を出すクラスが当日動きやすいように7月から活動してきました。何人もの人をまとめるのは初めての経験で最初は不安でいっぱいでしたが、だんだん仕事にも慣れ、他の食品係の生徒にも助けられ、無事に藍桐祭当日を迎えることができました。そして、当日は大きな問題が起こることもなく楽しくスムーズに運営ができたと思います。最後の文化祭で良い経験ができました。
(食品係責任者 高校2年)



初めての文化祭で分からないことだらけでしたが、先輩たちが一から丁寧に教えてくれました。クラス一同感謝しています。そして去年までは見ていた側だった私たちが、今回はお客さまを迎える側でうまくいくか心配でしたが、皆協力しあってリハーサルを重ねて、当日は大きなトラブルもなく進めることができました。この文化祭でより一層クラスの仲を深めることができました。来年も楽しみます!
(実行委員 中学1年)



Discover Japan

平成27年度 第69回

藍桐祭

今年のテーマは「英知」～Discover Japan～

10月3日・4日の2日間、好天に恵まれ、藍桐祭(文化祭)が行われました。共学部が発足して6年目。今年から、より生徒主体の行事運営を行うために新たに「藍桐祭執行部」が立ち上がりました。執行部は昨年度から企画会議を行い、夏は学校に泊まり込んで準備を進め、試行錯誤を重ねながらも彼ら自身の手で藍桐祭を作り込んできました。その思いが他の生徒へも広がり、「どうしたらお客さまに喜んでいただけるか」「おもてなしとはどういうことか」をぎりぎりまで討論・準備・練習を重ねてきました。当日は活気に満ち溢れ、お客さまに楽しんでいただけた2日間となりました。



私たちに3年間で最も大変な藍桐祭でした。最初に決めた企画は、半分がダメになり、急いで修正しました。歴史を解説する人形劇の人形は一から手作りし、顔出しパネルを描き、ゆるキャラ図鑑を作り…他にも色々やりました。すべてが上手くいったわけではなかったと思います。それでも、展示発表部門と装飾部門で1位をとれたのは、1組のメンバー全員が藍桐祭に向けて必死に全力で取り組んだからだと思っています。本当にありがとうございました。
(実行委員 中学3年)



僕は今回、藍桐祭実行委員として後夜祭の担当をしていました。後夜祭企画は今年度が初めてのことで、生徒の誘導が大変だったり、模擬店の商品がすぐに完売してしまったりと色々問題もありましたが、皆に楽しんでもらえたと思います。来年もし後夜祭を行うなら準備期間からもっと人手を集め、よりスムーズに運営を行ってきたいです。
(後夜祭担当実行委員 中学3年)



企画
審査会

Discover Japan
藍桐祭
JAPAN

第69回 藍桐祭
2015.10.3(Sat)-4(Sun)
10:00-16:00 (10/3)
10:00-15:00 (10/4)
noblesse oblige
東京都立大学 等々力中学校・高等学校
TOKYO CITY UNIVERSITY TODOKORO JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

パンフレット

高校生は飲食店の出店の権利を勝ち取るために、プレゼンテーションを行いました。販売品が藍桐祭のテーマに沿ったものか、利益があるか、などがポイントになります。藍桐祭終了後には、売上が多いクラスや展示内容が優秀なクラスが表彰されました。

昨年から始まった、2年目の新しい委員会

ノブレス・オブリージュとグローバルリーダーの育成のために全校でボランティア活動に取り組んでいます。その活動の中核を担うのがボランティア委員会です。5つの主な活動を紹介します。

- ①ユネスコの「世界寺子屋運動」に年間を通じて参画。
(具体的な活動は「書き損じハガキ」と「ペットボトルキャップ」の回収運動です)
- ②部活動におけるボランティアの実施。
- ③福島キッズボランティアへの参加。
- ④藍桐祭における活動内容の発表。
- ⑤講演会開催を通じた等々力ボランティアスピリットの育成。

1つ目の実績は、多くのはがきとペットボトルキャップを届けることができ、ユネスコから感謝状を贈呈されました(写真1)。2つ目の実績は、昨年より延べ17団体の部活動がボランティア活動に参加しました(写真2)。3つ目の福島キッズボランティアでは有志生徒23名が福島県の子供達を対象にワークショップを行いました。また、生活面のお世話役となり交流もしています(写真3)。4つ目の発表では、上智大学のボランティアサークルとコラボレーションして藍桐祭においてカンボジア支援プロジェクトを協働しました。5つ目の講演会とは、本校評議員である渡辺一雄氏の講演会です。「アメリカと日本のボランティアに対する意識の違い」をテーマに中学3年生が勉強しました。

次世代を担う等々力生は、ボランティア活動を通じて、諸外国の事情等にも関心を持ち、知識を膨らませてゆく有意義な活動を今後も展開していきます。



(写真1) 4月9日 ユネスコへの「26年度書き損じはがき贈呈式」(1023校)



(写真2) 7月26日 等々力の老人ホーム「納涼祭」でのお手伝い



(写真3) 「福島キッズボランティア」の様子

委員会活動紹介 ボランティア委員会

ボランティア委員の声

高校3年

高校ボランティア委員長

活動に協力して下さる方々の善意と優しさを最大限に活かせるよう、常に心がけながら活動してきました。

高校2年

高校ボランティア副委員長

生徒がより積極的に活動に参加できる方向へリードしてゆけるよう、委員会の更なる活性化を目指していきたいです。

中学2年

中学ボランティア委員長

皆が「ボランティア委員になりたい!」と思うような委員会にしていきたいと思っています。

都 市 大 生 徒 会 等 々 力

今だから語れる!?

藍桐祭の「あんな話」や「こんな話」

一番アツかったクラスの話

各クラスの企画書を見ていく中で、とある中学クラスに実現が難しいと思われる企画内容の変更を命じました。しばらくして、そのクラスから執行部委員長の僕に渡された「嘆願書」には、全員分の「やらせてほしい!」というメッセージが書いてあったのです。「ここまでアツくなるのか……」と驚きました。結果、変更された企画は一番完成度の高い企画になっていて、本当によく頑張ったなと思いました。

実は「後夜祭」は…

「生徒だけで楽しもう!」と、新しく始めることになった後夜祭ですが、実は、全体の流れがなかなか決まりませんでした。目玉企画の先生ライブをどこでやるか、最終的に決定したのはなんと前日の夜……。それでも場を盛り上げてくださった先生方、軽音楽部、有志の皆さん、本当にありがとうございました! 課題は来年度にしっかり引き継ぎます……!

塩尻さん、ようこそ等々力へ!

塩尻高校の生徒会の皆さんが、藍桐祭の見学に来ました! 都市大付属といえども、塩尻の「柏祭」と「藍桐祭」の形は大きく違うものだったので、お互いにいい刺激になりました。こうやって付属校同士で連携ができるのは、とてもよいことだと思います。舞チアの演技を見たり、自由に見学したりして、とても楽しそうでした!



校庭ステージ、どこが変わった?

今年度、校庭ステージには屋根がつき、横幅も広がって迫力があつたと思います。また、新企画で「美男?! 美女?! コンテスト」や先生インタビューなどを行いました。ご覧いただけましたか? しかし、準備が大変で……。企画を一から練ることの大変さを知りました。

これからの生徒会

高校総務委員

生徒会規約が変わる!?

今年度の生徒会活動のテーマは「自主性」です。総務委員会では、生徒が自治活動をしやすいように規約の改正を行うための活動をしています。規約とは、生徒会(クラス・部活・委員会等)のルールのことです。まだ詳細の発表はできないのですが、部活動の創部の仕方を明確にし、生徒会と先生方との合同会議などもできる予定です。

中学総務委員

役員選挙が変わる!?

11月21日(土)に実施される中学生徒総会と役員選挙では、本校体育館に実際の投票所を模した会場を設置し、中学生全員が本番さながらの投票を体験できるよう現在準備を進めています。これは選挙権が18歳に引き下がったことを鑑み、世田谷区選挙管理委員会の協力のもと実現するもので、本校では初めての試みとなります。

世界大学ランキングが発表されました。東大がやっと四十三位、京大が八十八位で慶應や早稲田などの私立大学はすべて五〇〇位以降です。「グリーン五〇〇」に比べてこちらの方がマスコミの取り上げ方は格段に大きく、東大が中国の北京大に抜かれたとかトップ一〇〇内の大学数でも中国に抜かれたと報道されていました。しかし、「ノーベル賞」や「グリーン五〇〇」は比較的審査基準が明確ですが、大学ランキングというのはどうも何を基準にしている、その基準が学問の水準にどの程度関係があるのかあまりよくわかりません。決定過程の検討もしないまま、結果だけを取り出して悲観するマスコミの姿勢やそれに踊らされて「喜憂する多くの日本人こそ私には嘆かわしく映り

今年もまたノーベル賞に二人の日本人が輝きました。これで日本人受賞者の数は湯川博士から二十四人を数えることになりました。しかも、平成八年からはほぼ毎年のように受賞しています。自然科学の分野の受賞者数はアメリカに次いで世界二位なのだそうですね。

八月の新聞に載っていましたが、スーパーコンピュータの省エネ性能を競うランキング、

noblesse oblige
—高貴な人が果たすべき責任と義務—

連載 ノブレス・オブリージュの旅

〈11〉

校長
原田 豊

「グリーン五〇〇」で日本の理研が開発した「菖蒲」というスパコンが世界一位となつたとありました。しかも二位三位も日本のつくば市にある研究機関の作った「青睡蓮」「睡蓮」、四位がドイツ製で五位にまた日本の東工大のスパコンが入つたことです。消費電力1ワット当たりの計算速度を競うランキング上位を日本製が独占したということ

一方で先月イギリスのタイムズが出した

「グリーン五〇〇」で日本の理研が開発した「菖蒲」というスパコンが世界一位となつたとありました。しかも二位三位も日本のつくば市にある研究機関の作った「青睡蓮」「睡蓮」、四位がドイツ製で五位にまた日本の東工大のスパコンが入つたことです。消費電力1ワット当たりの計算速度を競うランキング上位を日本製が独占したということ

そういえば日本の小中高生の学力ランキングを見て教育施策がいろいろ変化するななどということもありますが、私はもっと自信を持つべきだと思います。急増するノーベル賞日本人受賞者の数も最先端科学でリードする日本の技術も、時の流行や目新しさを追うことなく、地道に目の前の研究や実験や思索に没頭し、弛まぬ努力の積み重ねがあつてのことだろうと思います。ノーベル賞受賞者の言葉や技術者の談話を読んだり聞いたりするたびに、専門の話はちんぷんかんぷんでも、彼らの情熱とか根気とか信念の強さというものを一様に感じ、その情熱・根気・信念の強さこそ学ばなければならぬと思えます。

オーストラリア最先端科学研修

中3~高2

7月30日~8月14日まで豪州ゴールドコーストでの最先端科学研修を実施。グリフィス大学医学部・薬学部の研究室を訪れたり、医療技術研究機関であるTRIの実験室で遺伝子組み替え技術の体験や最先端医学の成果について講義を受けたりしました。



私がオーストラリア最先端科学研修をとおして学べたことや感じたことは多くあります。その中でも私が一番重要だと思ったのは「身をもって異文化に触れてみる大切さ」です。「百聞は一見にしかず」とありますが、もっともだと思います。また、気候も公用語も食文化も普段と違う地で生活することにより、少しでも「世界」を感じ、私の中で視野が広がったように思います。本当に良い体験でした。(高校1年)

大学で医学の授業を受けたことにより、将来の夢に向けて一歩前進した気がします。今回行った実験は、どれも面白く医学に対する興味が一層深まりました。また実際に医学部生と交流し、今自分がやるべきことが明確になりました。ホームステイでは、他国の人と共に生活することにより異文化に触れ合うことができ、貴重な経験になりました。今後の生活に活かしてゆきたいです。(中学3年)



イングリッシュサマーコース

中学

7月19日~22日、23日~26日に、本校初の試みであるイングリッシュサマーコースを実施。中学1年生~3年生の希望者計212名が、イギリス人講師による1日6時間×4日間の授業を受講。最終日には歌、劇やプレゼンによる発表もあり、大いに盛り上がりしました。



私は、今回のイングリッシュサマーコースに参加することになった時、不安がありませんでした。親に勧められたものの、外国人の先生なので言っていることが理解できる自信がありませんでした。しかし、授業を受けてみると、皆が参加できるゲームが盛りだくさんで、先生方も丁寧に教えて下さり、とても楽しかったです。最終日のプレゼンに向けて皆で協力した時間も夏休みのいい思い出です。(中学2年)

普段あまり関わらないネイティブの方と4日間英語づけの時間を過ごせるか、正直楽しみでもありませんでしたが不安でもありませんでした。でも実際受けてみると、先生は優しく気づいたら英語を話すことに抵抗を感じなくなっていました。勉強した単語を組み合わせるだけでも人に何かを伝えられることを体で実感し、英語を話す喜びさえ感じました。中3は今回で最後ですが、中学最後の夏にいい思い出ができてよかったです。(中学3年)

自己発見と共生の旅

中2

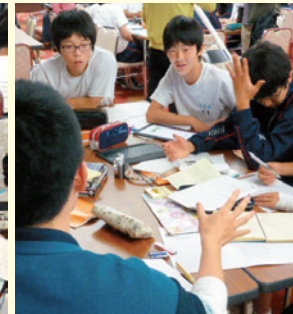
6月17日から3日間の日程で行われた「自己発見と共生の旅」。よりテーマを強く意識した旅にしようと、今年から訪問先を福島県に変更、内容も一新しました。



会津藩校「日新館」での座禅体験。心が洗われます



LA(大学生のアドバイザースタッフ)の指導のもと、熱心なグループ活動を行いました



大熊中の皆さんに聞きたいことがたくさん!

中2では福島県の会津若松市周辺(「猪苗代湖」、「野口英世記念館」、会津藩校「日新館」、原発事故の影響で全町避難を強いられている「大熊中学校」)を訪れ、体験学習を行いました。この旅は、ただ見学するだけでなく、そこで見聞きし、気づいたことをホテルに持ち帰って報告しあい、議論しあい、プレゼンテーションの作成を行う「アクティブラーニング」の手法を用いた学びになっています。生徒たちの感想を見ても、2泊3日の旅から得たものはとても多くあったようです。

人間とは、住む場所が違ったり習慣が違ったり置かれている状況が違ったりしても、共に生き、歩める生き物なのだと思いました。そして、よりコミュニケーション能力を身につけることができたし、思い出を共有することもできたと思います。

最初はグループで話し合っている中であまり自分の中に意見などがなく、積極的になることはできませんでしたが、エキスパート班^{※1}で情報を共有することによって自分の知識が増え、さらにアイデアも生まれ、積極性が身につきました。

会津藩の「什(じゅう)の掟^{※2}」から、どんなときも掟を守る、子どもたちの強い信念を学びました。また、それらを自分たちに当てはめて考えることで、これからの生活に対する心がけを探ることができたと思います。

※1 エキスパート班:与えられた一つのテーマについて詳しく考察するための班

※2 「什の掟」:会津藩校に入学する武士の子どもたちが守るべき心構え

夏季進学合宿

高1・高2

7月22日から6日間、高校1年生・2年生は朝6時から夜11時まで、授業と自習を合わせて「10時間学習」で自分の限界に挑戦しました。

私は帰りたいと思った。1日6時間授業、その2日目のことである。辛い、頭痛い、最悪だ。しかし、授業が終わった後TQノートを書きながら思った。私は今まで辛く感じたほど努力をしたことがなかった。一所懸命やるってこういうことだったんだ。帰りにそんなことを考えていた。私は、また勉強しようと思った。

最初、この合宿は丸1日勉強ばかりしなければならぬ嫌なものだと思っていました。しかし、6日間で初めは長くて辛いと思っていた授業も頭や身体が慣れ、苦手科目でも集中できていくことに気づきました。私たちはまだ高校1年生ですが、すぐに受験勉強が身近なものになってくると思います。その時には今回以上の集中力が必要だと思うので合宿の経験を役立てられたら良いと思います。

私たちがこの合宿で学んだことは、仲間がいることの大切さ、目標に向かって努力をすることの重要さでした。5泊6日の間ひたすら勉強を続けることは辛いことでしたが、毎日の朝テストという目標、共に一所懸命に学ぶ友の存在が、前向きな学びの姿勢と日々の努力を助けてくれました。この合宿を契機に、毎日少しの時間でも大学受験に向けて努力し始めた人は、決して少なくはありません。



きつい授業も先生たちの工夫で楽しいものになった!

進路講演会が企画されました

朝の体操前にテストの勉強

合宿一番の楽しみ!

サバイバルキャンプ

中1・中3(SA)

7月28日から3日間、西丹沢でサバイバルキャンプを実施。大自然との共生を通して、助け合い、尊重、感謝する気持ちなど様々なことを学びました。

この3日間は、テントの中で5人で暮らしたり、食事を自分達で協力して作って食べたり、普段の生活では減多にしない体験をしました。大変だったけれど、皆で頑張ったり、今まで知らなかった同級生や中3のSAと交流したり、楽しいことばかりでした。(中学1年)

このサバイバルキャンプでは、協力することが多く、そのようなところが「共生」につながっていると思います。この経験はこれからの学校生活にも活かせると思うし、社会に出た時、仕事する仲間との「共生」に役立つと思います。(中学1年)

サバイバルキャンプは、私にとってとても楽しい思い出となりました。仲間と一緒に時間やルールを守りながら行動し、ケータイもゲーム機もない世界で生活するのは、意外と普通でできるということを知りました。そして、このキャンプは私を成長させてくれたと思います。班長に不向きな私が班長を務めることができ、自分のことは自分で管理できるようになったからです。そして、クラスメイト以外の友達とも仲良くなりました。(中学1年)



私はリーダーとして仲間や友達をまとめるのが好きなので、SA[※]に興味を持ち、立候補しました。今回のキャンプをとおして相手に快く動いてもらうことの難しさや、指示が通った時の達成感を身をもって感じる事ができました。こんな経験をさせてくれた先生方や親に感謝し、将来は今回学んだことを活かしてゆけるよう精一杯努力したいと思います。(中学3年SA)

この夏休み、僕は先輩としてキャンプに行った。同じ所には2年前に行っていたが、終わってみると全てが違った世界だったように思える。先輩として後輩を助け、導き、アシスタントすることの重要さが分かったし、一緒に楽しむこともできた。参加して揃いのポロシャツも作製でき、素晴らしい行事だったとつくづく感じる。今年の1年生にも、2年後には是非SAとしてキャンプに行ってもらいたい。(中学3年SA)

※SA: Student Assistant